

これらの作業の進展と共に、本報告書から知り得る内容は徐々に豊かなものとなるう。

以上、くどくどしく述べてきたことは、本報告書を労をいとわず出版された人々には、自明のことであった。それは、

ただ、残念なことに、墨痕が薄く読みにくいこと、仮名で走書きしているため判読できないなどその解読には多くの困難がともなっている。しかし、その重要さは計り知れないものがあるため、出土木簡を写真によって早急に公開する必要がある、積読について不完全であることを承知の上、敢えて図録の刊行に踏みきった。

と自認される行間から窺い知ることができる。全くその見識、熱意、努力には、ただ敬服するのみである。

本書は、既に中世史研究上の様々な興味ある事柄を紹介しているが、同時に中世社会をその表層ではなく、より具体的な、現実の生活に即して解明すべきことを、中世人の残した断片断片を提示して訴えているのである。

調査の一層の進展、二集・三集の刊行、それから判明するであろう草戸千軒町遺跡の全貌と生活の実像を期待しつつ、本書の出版を喜ぶたい。

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所『草戸千軒—木簡—』（草戸千軒町遺跡研究資料 一）一九八二年三月三〇日発行 解説五八頁 図版六〇

木簡学会役員

会長	岸 俊男
副会長	大庭 脩
委員	青木 和夫
	門脇 禎二
	佐藤 宗諄
	坪井 清足
	原 秀三郎
監事	関 晃
幹事	加藤 優
	寺崎 保広
	町田 章
	土田 直鎮
	栄原永遠男
	東野 治之
	和田 萃
	佐藤 信
	橋本 義則
	岡崎 敬
	鬼頭 清明
	田中 稔
	早川 庄八
	直木孝次郎
	狩野 久
	岩本 次郎
	平野 邦雄